

② 教授過程

段階	時間	学習事項	学習の流れ	指導上の留意点
課題をとらえる	5	1、学習のめあてをとらえさせる。  湯と水をふれあわせておくとどうなるだろうか。	はじめ 話し合い (T <sub>1</sub> ) 問題提示 (T <sub>2</sub> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の意欲をメモし事後研究の資料とする。</li> <li>話し合いで確認した事項をノートさせる。</li> </ul>
	5	2、水と湯の温度はどうなると思うか、日常生活経験などから話し合う。 ○ 自分の考えた予想をメモする。 ○ グループ毎に話し合いをしてメモをまとめグループの代表が発表をする。	話し合い (T <sub>1</sub> ) 発表 (T <sub>2</sub> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>牛乳をあたためる例の補助発問、乳びんなどの現物を提示する。</li> <li>学習意欲についてメモする。</li> </ul>
	15	3 予想したことをもとにして、グループ毎に湯と水をふれ合わせる実験をして調べる ○ 実験の方法を知る ・使用する実験器具 ・使用方法 ・何をみるのか ○ 実験をする  ○ どう変わったか、結果を記入する。 ○ 記入したことをみながら、どうしてそうなるのか考える。	方法提示 (T <sub>1</sub> ) ① 実験 ② 実験 ③ 実験 ④ 実験 結果記入 たしかめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験器具をグループ毎に貸与する。</li> <li>火傷をおこさないように十分注意を与える。</li> <li>安全を確認する。</li> </ul>
たしかめる	5	4、湯と水の温度はどのように変わったか、予想とくらべながら発表をする。	発表 (T <sub>1</sub> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体としての理解様相をメモする。</li> <li>発表を掲示用グラフ紙を用いまとめる。</li> </ul>
	7	5、高い湯の温度と低い水の温度がなぜ変わったのか。  高い温度の湯の熱が低い温度の水の熱へうつったことを知る。	まとめ (T <sub>1</sub> ) たしかめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の提示</li> <li>温度変化の方向性をきちんととらえられたかどうかたしかめる。</li> <li>液体の熱の移動から固体の熱の移動の課題を考えさせる。</li> </ul>
まとめ	8	6、本時の学習から次時の学習課題を見つける  ガラスや金属は熱がうつるだろうか。	話し合い (T <sub>1</sub> ) 問題提示 (T <sub>2</sub> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>固体の熱の移動をたしかめることを提示する。</li> </ul>
			おわり	